

松翠会 だより

第六号

平成 23 年 7 月 13 日



会長 加藤 主税 (17回生)

「松翠会入会おめでとうございます」

松翠会 会長
加藤主税 (17回生)

平成23(2011)年卒業の皆様、卒業おめでとうございます。同時に松翠会入会、さらにおめでとうございます。

3年前、合格発表の喜びから高校生活の思い出が始まりましたね。感無量でしょう。私も50年ほど前、同じ時期、同じ高校、同じ場所で、皆さんと同じ思いを経験しました。

卒業に当たっては、先生、家族の方々の喜びは格別なものでしょうが、同窓生というのは、皆さん方と同じ立場で、同じ経験を共有した仲間ということで、特別な存在であります。皆さんのバックには20,000名程の会員がいます。全会員が皆さんの入会をまことにうれしく思います。人間関係は昔より、難しくなってきました。でも瀬戸高校卒と言われるだけで、仲間感が生じます。難しい社会情勢の時代ほど、このような同窓会組織は有効で絶対必要です。同窓会が発展すればするほど、高校の社会的評価は上昇するものです。

私は、平成22(2010)年10月の総会で会長を仰せつかりました。眉山女学園大学教授で、学外ではテレビラジオで見られた方もおられるかとは思いますが、コトバ評論家、占い評論家、若者生態評論家として活動しております。専門は言語学(英語学)です。

さて、松翠会総会は別掲のように、10月30日(日)パーティセとで11時から開催いたします。多くの同窓生と交流を深めて頂くための絶好の機会です。新入会員はもちろんですが、多くの会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

平成23年度総会・懇親会案内

日 時	平成 23年10月30日(日)
場 所	午前11時受付 11時30分総会及び懇親会
会 場	パーティセと 5Fアリーナ (瀬戸市栄町45番地 名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅東)
会 費	4,000円(23年卒業生は2,000円)
特 別 案 内 学 年	昭和12年卒(高女13回)、23年卒(高女24回)、 昭和32年卒(高校9回)、42年卒(高校19回)、 昭和52年卒(高校29回)62年卒(高校39回)、 平成9年卒(高校49回)、19年卒(高校59回)、 平成23年卒(高校63回)

役員会より

～久しぶりに、同窓生と、学び舎での思い出を語りましょう!～
～久しぶりに、同窓生と、声高らかに校歌を歌ってみましょう!～

総会及び懇親会への多数の参加をお願いいたします。

特別案内学年へは、学年幹事から案内ハガキなどでご案内がされます。その他の学年の方々も参加できますので、ぜひ、お知り合いの方々に知らせてあげてください。

また、総会の折りに、在校生・卒業生で顕著な研究・活動実績のあった方を顕彰する松翠会賞の表彰制度がありますので、心当たりの会員を、ぜひ推薦ください。

第6回 松翠会杯 ゴルフコンペ

(平成23年5月24日 品野台カントリークラブ)

第6回松翠会杯のゴルフコンペが、晴天に恵まれたなか開催されました。参加資格は満60歳以上のシニアだったが、全25組・男女90人が参加した。

優勝者は、大津堅悟さん（高校12回生）で、ベストスコアは、男性が優勝者の大津堅悟さんの85、女性は神尾由起子さんの99でした。



優勝した大津 堅悟さん

優勝

大津 堅悟

85 ネット71.80



2位 梶田 悟 93 72.60

3位 井上 守政 98 72.80

4位 磯村 栄助 90 73.20

5位 山田 基也 93 73.80

ニアピン賞

(アウトスタート) 加藤周三、川原春子、磯村栄助、酒井勝行
(インスタート) 宮原貴、鈴木三枝子、加藤恒夫、小林和幸

「産業領域におけるメンタルヘルスを探究」

愛知淑徳大学心理学部 教授 古井 景さん
FURUI Hikari
(瀬戸高校32回生)



古井景教授は1962年生まれで、瀬戸高校を卒業後、愛知医科大学医学部、同大学院医学研究科（社会医学専攻）へ進み博士（医学）となられ、現在は、愛知淑徳大学心理学部、同大学院心理学研究科教授として、また愛知淑徳大学クリニック心療内科・精神科にて臨床医として活躍されています。

医師であり臨床心理士でもある立場から、抑うつ状態・現実不適応（適応障害）への対処に関する精神分析的研究を行い、同大学の心理臨床相談室でも指導相談員として、引きこもりや家庭内暴力、摂食障害、強迫性障害、パニック障害など心の問題で苦しむ方々や登園しぶり、不登校、情緒障害、自閉症、知的発達の遅れなど様々な困難を持ったお子さんや親御さんに対して、心理相談や心理的ケアにあたっておられます。また、多くの保健所・保健センターで、出産前の母父親教室での沐浴指導や母父親向け子育て教室など、こどもの成長における母親と父親の役割に目を向けた子育て支援を展開し、学校での保護者向け講演会や教員向け研修会なども積極的に行っている。さらに、多くの企業で、職業性ストレスなど産業領域におけるメンタルヘルスについての研修・講演活動もされており、「職場不適応の理解と対応」、「ゴム風船の中で生きる若者たち—自称「うつ病」とその対応—」など、著書も多数執筆されておられます。

作業的な成績重視教育の中で心理・社会的な自立ができていない若者たちが増えている現代社会の問題に目を向け、『母親から生まれ母親に守られる安心感の重要性』に加え、『父親が子育てをすることにより母親からの自立』が促され、さらに、就学とともに『家庭からの社会的自立』へ、そして就職により『経済的自立』へと移っていくことを伝えるべく、日々、保健所・保健センター、教育機関、企業と様々な領域で相談・講演活動に飛び回っておられます。